



No.823 カムリシロムクの肝臓 日本獣医畜産大学

【動物】トリ，カムリシロムク (*Leucopsar rothschildi*)，雄，40 日齢，40g.

【臨床事項】動物園で孵化後，1 ヶ月間は親と，その後死亡するまで同腹雛と同居．当動物園では本例の他に2年間で幼齢および若齢雛3羽が斃死している．

【剖検所見】肝臓は腫大し，針頭大の境界不明瞭な淡褐色斑が密発．

【組織所見】肝臓実質内にマクロファージ，リンパ球，偽好酸球の集簇巣が多数みられた．マクロファージおよびリンパ球の細胞質内には多数の原虫が認められ，これらはシスト内に充満するもの，あるいは同心円状に存在するものと，単独で存在するもの(矢印)があった(図1)．シスト内の原虫は好酸性細胞質と核を有し，単独で寄生するものは全体に好塩基性であった．原虫は大きさ $2\sim 3.5 \times 1.3\sim 2.6 \mu\text{m}$ ，PAS反応陰性，フォイルゲン反応陽性であった．電顕観察で原虫は一端がやや鋭で他端が鈍な形態を示し，内部には孢子虫類の特徴であるconoid (Co)，microneme (Mn)，rhoptry (Rh)が認められた(図2，bar=500 μm)．免疫染色では抗*Toxoplasma gondii*抗体に陽性を示したが，*Toxoplasma gondii*特異的プライマー(B1遺伝子)を用いたPCRではバンドが検出されなかった．その他肺，脾臓，腎臓，心臓，筋胃，小腸においても同様に原虫寄生を伴う炎症細胞浸潤がみられた．また小腸上皮細胞および腺上皮細胞の細胞質内には大きさ約20 μm のオーシスト(図3，矢印)と複数のガメトゴニー(図3，挿入図，矢印)が認められた．

【診断】カムリシロムクの *Atoxoplasma* 肝炎

【考察】トリに寄生する孢子虫類として *Atoxoplasma*，*Toxoplasma*，*Sarcocystis* があげられるが，小腸において有性生殖世代が確認されたこと，電顕でrhoptryが観察されたこと，原虫の寄生部位および大きさから，この原虫は *Atoxoplasma* であると判断した．*Atoxoplasma* は有性世代を小腸上皮で，無性世代をリンパ球やマクロファージなどで行い，全身諸臓器に高度の炎症を起こす．若齢のトリ，特にスズメ目が高感受性で，海外ではカムリシロムクでの集団発生の報告もある．今のところ日本での発生報告はない．(村杉真樹)

【参考文献】 Quiroga, M.I. et al. Avian Disease, 44: 465-469 (2000).